

# ***BST-GF***

操作編

---

S・RC・SRC造一貫計算システム



# *BST - GF*

操作編

---

S, RC, SRC造一貫計算システム



## はじめに

この説明書は、パブリックユースプログラムとして開発した、ビルタイプ建築物一貫計算プログラム「BST-GF」について説明したものです。

本書は「BST-GF」の操作等についての説明書です。他に入力編、概要編、出力編がありますので合わせて参照してください。

## 注 意

1. 本書内容の一部あるいは全部の無断転載および複写を禁じております。
2. 本書内容は、予告なく変更することがありますが、予め御了承ください。
3. 本書内容につきましては、万全を期しておりますが、万が一お気付きの点、不明な点等がございましたら、弊社まで御問い合わせください。
4. 運用に際しましては、表現されている内容の技術的な前提条件を充分御理解していただいた上で御活用ください。
5. 建築基準法、同施行令の改正または、各地域による行政庁の指導等の違いによりプログラムの一部に機能不備等が発生しましても、弊社は一切責任を負い兼ねますので予め御了承下さい。
6. 本システム使用に際して生ずる利益、または損失については、弊社は一切責任を負い兼ねますので予め御了承ください。
7. 「BST-GF」として提供される媒体に収録されているプログラム等、および本説明書の著作権は、全て当社に帰属します。  
貴殿は、当社から許諾を受けた使用権に基づき、このパッケージプログラムを指定装置においてのみ使用できます。

# 目 次

1.	初期設定	1
1. 1	システムの転送	1
1. 2	固定ディスクの初期化	2
1. 3	漢字辞書の転送	3
1. 4	バックアップの方法	3
1. 5	その他	4
2.	起動	5
3.	初期JOB	7
3. 1	実行	7
3. 2	環境メンテナンス	8
3. 3	データメンテナンス	10
3. 4	任意形状登録	12
3. 5	実行終了	19
4.	メインJOB	21
4. 1	データ入力	21
4. 2	本体計算実行	21
4. 3	計算結果表示印刷	21
4. 4	二次部材計算実行	21
4. 5	補助機能	21
4. 6	入力データクリア	21
4. 7	メインJOB終了	21
5.	入力JOB	23
5. 1	準備計算用データ入力	23
5. 2	剛性計算用データ入力	23
5. 3	応力計算用データ入力	23
5. 4	断面計算用データ入力	23
5. 5	入力JOB終了	23
6.	本体計算JOB	25
7.	表示JOB	27
7. 1	プリンタへ印刷	27
7. 2	ディスプレイに表示	28

8.	二次部材計算JOB .....	29
8.1	S造小ばりの断面計算 .....	30
8.2	RC造小ばりの断面計算 .....	33
8.3	S造片持ちばりの断面計算 .....	37
8.4	RC造片持ちばりの断面計算 .....	39
8.5	SRC造片持ちばりの断面計算 .....	41
9.	補助機能 .....	45
9.1	データライン数の変更 .....	46
9.2	エコプリント .....	48
9.3	データチェック .....	49
9.4	フレーム図, 伏図表示 .....	50
9.5	応力図表示 .....	52
9.6	変位図表示 .....	53
9.7	断面計算結果図 .....	54
10.	その他 .....	57
10.1	解説書の追加申込 .....	57
10.2	プログラムディスクの復旧申込 .....	57
10.3	振込口座 .....	57

## 1. 初期設定

「BST-GF」のシステムには、「MD-DOS」のシステム等は組み込まれていません。

「BST-GF」を初めて使用する前に、必ず下記の操作を行ってください。

また、固定ディスクが「MD-DOS」で使用できない状態の場合は、必ず固定ディスクの初期化を行ってください。

### 1. 1 システムの転送

「MS-DOS」のシステムの組み込みに必要なディスクおよび転送手順を下記に示します。

「BST-GF」NO. 1 ディスク

「MS-DOS」システムディスク Ver 3.1 以上  
(ただし、Ver 3.1 は PS98-011 のみ)

- (1) ドライブ1に「MS-DOS」システムディスク#1をセットし本体を起動します。メニュー画面が起動されます。  
「MENUの終了」を選択し、MS-DOSのコマンド入力待ち(A>)状態にしてください。
- (2) ドライブ2に「BST-GF」NO. 1ディスクをセットしてください。  
B:ASD1と入力し[Enter]キーを押します。実行に必要なシステム(システム, COMMAND.COM, FORMAT.EXE, PRINT.SYS, RAMDISK.SYS)を「BST-GF」NO. 1ディスクにコピーします。
- (3) 必要なシステムのコピーが終了すると、画面にメッセージが表示されますので、そのメッセージに従って「NECDIC.DRV」の入っている「MS-DOS」のシステムディスク(Ver 3.1 は#2, Ver 3.3 以上は#3)をドライブ1にセットし、何れかのキーを押します。  
NECDIC.DRVを「BST-GF」NO. 1ディスクにコピーします。
- (4) 必要なシステムのコピーが終了すると、画面に「初期設定終了」と表示されます。

以上で、「BST-GF」NO. 1ディスクへのシステムの転送は終了です。

「BST-GF」NO. 1ディスクは2枚ありますので、もう1枚も同じ操作を行ってください。

## 1. 2 固定ディスクの初期化

固定ディスクが『MS-DOS』で使用できない状態（『MS-DOS』での使用領域が確保されていない物）の場合、または、使用中の固定ディスクで、固定ディスクに入っているデータを全て消去したい場合等は、下記操作を行って、『MS-DOS』で使用できる状態にしてください。

使用中の固定ディスクに対して下記操作を行った場合は、固定ディスクに入っている内容が全て消去されますので、注意してください。

既に、使用できる状態になっている場合は、下記操作の必要はありません。

固定ディスクの初期化手順を下記に示します。

### ・『MS-DOS』システムディスクを使用する場合

- (1) ドライブ1に『MS-DOS』システムディスク#1をセットし本体を起動します。メニュー画面が起動されます。  
「MENUの終了」を選択し、MS-DOSのコマンド入力待ち（A>）状態にしてください。
- (2) FORMAT/Hと入力し[Enter]キーを押します。メニューが表示されます。
- (3) 初期化を選択し、実行します。
- (4) 領域確保を指定し、確保容量（MS-DOSで使用する容量）、システムの転送の有無等、必要事項を設定し、実行します。
- (5) 『MS-DOS』のバージョンによっては、状態変更を指定し、「アクティブ」を選択します。既に、「アクティブ」になっている場合は、変更の必要はありません。
- (6) 終了を選択します。

### ・『BST-GF』NO. 1ディスクを使用する場合

- (1) 『BST-GF』を起動します。初期JOBのメニューが表示されます。  
f・3 [環境]（環境メンテナンス）を押します。
- (2) 環境メンテナンスのメニューが表示されます。  
f・6 [固定]（固定ディスクの初期化）を押し、上記(3)～(6)の操作を行います。

以上で、固定ディスクの初期化は終了です。

固定ディスクの初期化が終了しましたら、本体を起動しなおしてください。

固定ディスクの初期化について、詳しくは、『MS-DOS ユーザーズリファレンスマニュアル』を参照してください。

### 1. 3 漢字辞書の転送

『BST-GF』では、工事名等が漢字で入力できます。よって、漢字入力を行う際に使用する漢字辞書 (NECDIC.SYS) を任意のドライブに登録しておく必要があります。既に、固定ディスク等に漢字辞書 (NECDIC.SYS) が登録されている場合は、本操作の実行は、必要ありません。

漢字辞書 (NECDIC.SYS) 転送手順を下記に示します。

- (1) ドライブ1に『MS-DOS』システムディスク#1をセットし本体を起動します。メニュー画面が起動されます。  
「MENUの終了」を選択し、MS-DOSのコマンド入力待ち (A>) 状態にしてください。
- (2) ドライブ2にNECDIC.SYSの入っている『MS-DOS』システムディスク (Ver 3.1 は#2, Ver 3.3以上は#3) をセットします。  
COPY△B:NECDIC.SYS△ [コピー先ドライブ番号] : と入力しⓀキーを押します。(△はスペース)

以上で、漢字辞書のコピーは終了です。

### 1. 4 バックアップの方法

『BST-GF』NO. 2~NO. 5ディスクは、バックアップのディスクが作成できません。バックアップのディスクを作成する際は、必要な枚数のディスクを用意し、下記操作を実行してください。

- (1) ドライブ1に『MS-DOS』システムディスク#1をセットし本体を起動します。メニュー画面が起動されます。  
「MENUの終了」を選択し、MS-DOSのコマンド入力待ち (A>) 状態にしてください。
- (2) FORMAT△B: /Mと入力しⓀキーを押します。(△はスペース)  
画面にメッセージが表示されますので、そのメッセージに従ってドライブB(2)に初期化するフロッピーディスクをセットし操作を行います。  
初期化が終了するとメッセージが表示されますので、続けて初期化を行う場合はYを、終了する場合はNを入力しⓀキーを押します。必要枚数分のフロッピーディスクを初期化します。  
初期化するフロッピーディスクの内容は全て消去されますので、注意してください。
- (3) DISKCOPY△A:△B: と入力しⓀキーを押します。(△はスペース)  
画面にメッセージが表示されますので、そのメッセージに従って、ドライブA(1)に『BST-GF』NO. 2~NO. 5ディスクを、ドライブB(2)に初期化したディスクをセットし操作を行います。  
コピーが終了するとメッセージが表示されますので、続けてコピーを行う場合はYキーを、終了する場合はNキーを押します。
- (4) 終了した際に、画面にメッセージが表示されることがあります。この場合は、『MS-DOS』システムディスク#1をセットし操作を行ってください。

以上で、バックアップは終了です。

FORMAT, DISKCOPY 命令について、詳しくは、『MS-DOS ユーザーズリファレンスマニュアル』を参照してください。

## 1. 5 その他

「BST-GF」を初めて使用する際には、固定ディスク等の設定を行う必要があります。

「3. 初期JOB」の「3.2 環境メンテナンス」を参照してください。

RAM ディスクを使用する際は、「BST-GF」NO. 1ディスクに入っている、「CONFIG.SYS」ファイルの訂正が必要です。

下記に、NEC内蔵RAM（1MB）の場合を示します。詳しくは、各メーカーの説明書を参照してください。

MS-DOSのコマンド入力待ち（A>）状態で、ドライブ1に「BST-GF」NO. 1ディスクをセットし、下記のように入力します。

```
COPY△CON△A:CONFIG.SYS☑  
DEVICE=A:PRINT.SYS☑  
DEVICE=A:RAMDISK.SYS△1024△1024△192☑  
DEVICE=A:NECDIC.DRV△☐:NECDIC.SYS☑  
FILES=30☑  
CTRLキー+Zキー☑
```

△：スペース

☐：漢字辞書の入っているドライブ番号

以上で、「CONFIG.SYS」ファイルの修正は終了です。

## 2 . 走 已 重 力

「BST-GF」の起動方法を下記に示します。

- (1) ドライブ1に「BST-GF」NO. 1ディスクをセットし本体を起動します。
- (2) 「BST-GF」が起動すると、日付および時間の設定となります。表示されている日付または時間が合っている場合は、キーのみ押します。

日付の変更をする場合は、西暦-月-日と入力しキーを押します。

時間の変更をする場合は、時:分:秒と入力しキーを押します

- (3) 時間の設定が終了すると、画面に「BST-GF」の表紙が表示され、しばらくすると「初期JOB」の画面が表示されます。

以上で、「BST-GF」は起動されます。

### 3. 初期JOB

「BST-GF」が起動すると、初期JOBとなります。  
以下に、各項目の使用方法を示します。

#### 3.1 実行

データの入力および計算の実行等を行う場合は、f・1〔実行〕を押します。  
使用する領域の指定となりますので、ファンクションキーで指定してください。  
f・1～f・5を指定した場合は、メインJOBに移ります。

- f・1〔領域1〕 実行領域1を使用し入力および計算をする。
- f・2〔領域2〕 実行領域2を使用し入力および計算をする。
- f・3〔領域3〕 実行領域3を使用し入力および計算をする。
- f・4〔領域4〕 実行領域4を使用し入力および計算をする。
- f・5〔領域5〕 実行領域5を使用し入力および計算をする。
- f・10〔終了〕 初期JOBの項目選択に戻る。

「BST-GF」では、同時に5物件までの入力および計算結果のデータを保有することが可能です。ただし、固定ディスクの容量が不足する場合は、計算途中等にエラー(Disk full)が発生する場合があります。この場合は、固定ディスクの容量を増やすか必要でないデータの入っている領域をクリアしてください。

初めて使用する場合は、〔環境メンテナンス〕により、各設定およびプログラムの転送等を行ってから、指定してください。各設定およびプログラムの転送等が実行されていない場合は、エラーとなります。

### 3. 2 環境メンテナンス

「BST-GF」での動作環境の設定、フロッピーディスク、固定ディスクの初期化等、「BST-GF」を運用する際に必要な設定または処理をするJOBです。

f・3〔環境〕を押します。

環境メンテナンスの項目が表示されます。

#### 1. f・1〔環境〕 各ドライブ番号の指定および出力幅の設定

- ・プログラムドライブ番号 NO. 2～NO. 5 ディスクの転送先ドライブ番号
- ・ディスクドライブ番号 入力データ, 計算結果の記録ドライブ番号
- ・演算用ドライブ番号 マトリックス計算に用いるドライブ番号 (RAM ディスク番号)
- ・漢字辞書ドライブ番号 漢字辞書 (NECDIC.SYS) の記録されているドライブ番号
- ・プリンタ出力幅 プリンタに出力する幅 (1 : B5 2 : B4)

f・10〔終了〕を押すと、指定データを記録し、「CONFIG.SYS」ファイルの漢字ドライブ番号を訂正します。

f・6〔中止〕を押すと、指定データを無視し終了します。

RAM ディスクを使用する際は、「BST-GF」NO. 1 ディスクに入っている「CONFIG.SYS」ファイルを任意に訂正する必要があります。

#### 2. f・2〔作成〕 「BST-GF」で使用するディレクトリ等の作成

「BST-GF」を初めて使用する際は、必ずf・2を押してください。

指定すると、固定ディスクに「BST-GF」で使用するディレクトリおよび鋼材データ等が、指定されているドライブに作成されます。

既に、作成されている場合は、鋼材データ等が初期状態に戻りますので、任意に登録している場合は、注意してください。

#### 3. f・3〔クリア〕 領域1～領域5のエリアをクリア

クリアする領域を指定します。

入力データおよび計算結果データが全てクリアされますので、注意してください。

クリア領域を指定すると、確認が出来ますので、実行する場合は「Y」を中止する場合は「N」キーを押してください。

- f・1〔領域1〕 実行領域1をクリア
- f・2〔領域2〕 実行領域2をクリア
- f・3〔領域3〕 実行領域3をクリア
- f・4〔領域4〕 実行領域4をクリア
- f・5〔領域5〕 実行領域5をクリア
- f・10〔終了〕 環境メンテナンスの項目選択に戻る。

#### 4. f・4 [転送] NO. 2～NO. 5 ディスクの転送

「BST-GF」NO. 2～NO. 5 ディスクの指定ドライブへの転送をします。  
「BST-GF」を初めて使用する場合または、プログラムの修正があった時は必ず実行します。

f・4を押すと、画面にメッセージが表示されますので、そのメッセージに従って、「BST-GF」NO. 2～NO. 5 ディスクをセットし、操作を行います。

「Y」キーを押すと指定ドライブに転送され、「N」キーを押すとそのディスクの転送を中止し、次のディスクとなります。

#### 5. f・5 [フロッピー] フロッピーディスクの初期化

フロッピーディスクの初期化を行います。  
初期化するディスクの内容は、全て消去されますので、注意してください。

f・5を押すと、画面にメッセージが表示されますので、そのメッセージに従って、操作を行います。

「Y」キーを押すと、ドライブ2にセットされているディスクの初期化を行います。「N」キーを押すと、ディスクの初期化を中止します。

#### 6. f・6 [固定] 固定ディスクの初期化

「MS-DOS」で使用できない固定ディスク（新品の固定ディスク等）の初期化を行います。

既に、使用している固定ディスクを初期化すると、内容が全て消去されますので、注意してください。

f・6を押すと、固定ディスクの初期化に移ります。

詳しくは、「MS-DOS ユーザーズリファレンスマニュアル」を参照し、「MS-DOS」で使用できる領域を作成してください。

固定ディスクの初期化が終了しましたら、「BST-GF」を終了させ、本体を起動しなおしてください。

### 3. 3 データメンテナンス

「BST-GF」での入力データの保存、読み込みおよび、保存用ディスクの作成を処理をするJOBです。

f・4〔データ〕を押します。

データメンテナンスの項目が表示されます。

#### 1. f・1〔作成〕 保存用ディスクの作成

「MS-DOS」でフォーマットしたディスクを、「BST-GF」保存用ディスクにします。

f・1〔作成〕を押すと、画面にメッセージが表示されますので、そのメッセージに従って操作を行います。

「Y」キーを押すと、ドライブ2にセットされているディスクを、保存用ディスクに作成を行います。「N」キーを押すと、作成を中止します。

保存用ディスク1枚に入力データは、4物件保存できます。必要に応じて、作成してください。

#### 2. f・2〔保存〕 入力データの保存

入力データを保存用ディスクに保存します。

f・2〔保存〕を押すと、入力データの保存になります。

画面にメッセージが表示されますので、そのメッセージに従って操作を行ってください。

既に、入力データが入っている番号を指定した場合は、前の入力データは無効となりますので、注意してください。

- (1) 入力データの保存領域をファンクションキー（f・1～f・5）で指定します。f・10を押すと、データの保存を中止します。
- (2) 保存用ディスクをドライブ2にセットし、「Y」キーを押します。保存用ディスクの内容が表示されます。「N」キーを押すとデータの保存を、中止します。
- (3) 入力データを保存する箇所をファンクションキー（f・1～f・4）で指定します。指定された箇所に入力データを保存し終了します。  
f・10を押すと、データの保存を中止します。  
f・6を押すと保存ディスクの交換となります。

### 3. f・3〔読込〕 入力データの読み込み

入力データを保存用ディスクから読み込みます。

f・3〔読込〕を押すと、入力データの読み込みとなります。

画面にメッセージが表示されますので、そのメッセージに従って操作を行ってください。

入力データが入っている領域に読込をした場合は、前の入力データは無効となりますので、注意してください。

- (1) 入力データの読み込み領域をファンクションキー (f・1～f・5) で指定します。f・10を押すと、データの保存を中止します。
- (2) 保存用ディスクをドライブ2にセットし、「Y」キーを押します。保存用ディスクの内容が表示されます。「N」キーを押すとデータの読み込みを、中止します。
- (3) 入力データを読み込みする箇所をファンクションキー (f・1～f・4) で指定します。指定された箇所を入力データを読み込み終了します。  
f・10を押すと、データの読み込みを中止します。  
f・6を押すと保存ディスクの交換となります。

### 3. 4 任意形状登録

「BST-GF」で使用する鋼材，継手，仕口および積載荷重を登録します。  
f・5〔登録〕を押します。  
任意形状登録の項目が表示されます。  
本項で登録された形状は、全ての計算に有効となります。

#### 1. f・1〔鋼材〕 鋼材形状登録

「BST-GF」鋼材テーブル表に載っていない鋼材を登録します。  
f・1〔鋼材〕を押します。  
登録するテーブル番号を指定し、鋼材寸法を入力します。

テーブル番号	形状
1～100	細幅H形鋼
101～200	中幅H形鋼
201～300	広幅H形鋼
301～400	軽量H形鋼
401～700	SRC用H形鋼
701～1000	H形鋼
1001～1200	角形鋼管（R有り）
1201～1600	角形鋼管（R無し）
1601～1900	鋼管
1901～2000	リップみぞ形鋼
2001～2100	CT形鋼（細幅H形鋼の半裁）
2101～2200	CT形鋼（中幅H形鋼の半裁）
2201～2300	CT形鋼（広幅H形鋼の半裁）
2301～2400	CT形鋼（軽量H形鋼の半裁）
2401～2700	CT形鋼（SRC用H形鋼の半裁）
2701～3000	CT形鋼

鋼材形状登録におけるファンクションキー内容を、下記に示します。

- f・1〔次鋼材〕 次のテーブルの入力に移る。
- f・2〔前鋼材〕 前のテーブルの入力に移る。
- f・3〔複写〕 前のテーブルの寸法を複写する。
- f・4〔印刷1〕 鋼材寸法のプリンタへ出力します。開始テーブル番号，終了テーブル番号を指定します。
- f・5〔印刷2〕 鋼材寸法および断面性能のプリンタへ出力します。開始テーブル番号，終了テーブル番号を指定します。
- f・6〔中止〕 入力したデータを登録しないで、終了する
- f・7〔コピー〕 マスターファイルより、ユーザーファイルに鋼材寸法をコピーします。この操作を実行した場合は、任意に登録している鋼材寸法が消去されます。
- f・10〔終了〕 入力したデータを登録し、終了する

2. f・2〔継手〕 継手形状登録

「BST-GF」で使用する継手形状を登録します。  
 f・2〔継手〕を押します。  
 継手形状登録におけるファンクションキー内容を、下記に示します。

- f・1〔次継手〕 次のテーブルの入力に移る。
- f・2〔前継手〕 前のテーブルの入力に移る。
- f・3〔複写〕 前のテーブルのデータを複写する。
- f・5〔印刷〕 継手データをプリンタへ出力します。開始テーブル番号  
終了テーブル番号を指定します。
- f・6〔中止〕 入力したデータを登録しないで、終了する
- f・7〔コピー〕 マスターファイルより、ユーザーファイルに継手データをコ  
ピーします。この操作を実行した場合は、任意に登録してい  
る鋼材データが消去されます。
- f・10〔終了〕 入力したデータを登録し、終了する

項目		説明	単位								
1	テーブルNO.	継手テーブル番号 (1~300)									
2	Ft1	フランジ外側添板プレート厚さ	mm								
3	Fb1	フランジ外側添板プレート幅	mm								
4	Ft2	フランジ内側添板プレート厚さ	mm								
5	Fb2	フランジ内側添板プレート幅	mm								
6	Wt	ウェブ添板プレート厚さ	mm								
7	フランジ 径	フランジボルト径	mm								
8	フランジ 配列	フランジボルト配列 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>配列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1列</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>千鳥</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2列</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	配列	1	1列	2	千鳥	3	2列	
入力値	配列										
1	1列										
2	千鳥										
3	2列										
9	n	フランジボルト本数									
10	p	フランジボルトピッチ	mm								
11	e	フランジボルト端空き	mm								
12	gl	フランジボルトゲージ1	mm								

13		g2	フランジボルトゲージ 2	mm	
14	ウェブ	径	ウェブボルト径	mm	
15		配列	ウェブボルト配列		
		入力値	配列		
		1	1列		
		2	2列		
16		n	ウェブボルト本数		
17		p1	ウェブボルトピッチ 1	mm	
18		p2	ウェブボルトピッチ 2	mm	
19		e1	ウェブボルト端空き 1	mm	
20		e2	ウェブボルト端空き 2	mm	

- (1) 3項が「0」の場合は、はり幅となり、5項が「0」の場合は、下記のようになります。

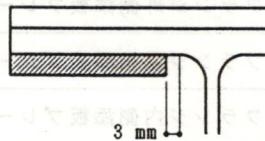


図 3.1 内側添板幅

- (2) 7,14項で指定できるボルト径は、表 3.1に示す値とします。
- (3) 8項が「0」の場合は、はり幅により下記の様に内部処理されます。また、15項が「0」の場合は、1列として処理します。

はり幅 ≤ 250mm	1列
250mm < はり幅 ≤ 300mm	千鳥
300mm < はり幅	2列

- (4) 9,16項が「0」の場合は、計算値となります。
- (5) 10,11,17~20項が「0」の場合は、表 3.1に示す値とします。

入力値	ボルト径	穴径	ピッチ	端空き
16	M 16	17.0	60	30
0, 20	M 20	21.5	60	35
22	M 22	23.5	70	40
24	M 24	25.5	80	45

(単位：mm)

表 3.1 ボルト

(6) 12, 13 項が「0」の場合は、はり幅により下記の様に処理されます。

	はり幅 ≤ 100mm	g1: 60mm	g2: -
	100mm < はり幅 ≤ 125mm	g1: 75mm	g2: -
	125mm < はり幅 ≤ 150mm	g1: 90mm	g2: -
	150mm < はり幅 ≤ 175mm	g1: 105mm	g2: -
	175mm < はり幅 ≤ 200mm	g1: 120mm	g2: -
	200mm < はり幅 ≤ 250mm	g1: 150mm	g2: -
	250mm < はり幅 ≤ 300mm	g1: 150mm	g2: 40mm
	300mm < はり幅 ≤ 350mm	g1: 140mm	g2: 70mm
	350mm < はり幅	g1: 140mm	g2: 90mm

### 3. f・3〔仕口〕 仕口形状登録

「BST-GF」で使用する仕口形状を登録します。

f・3〔仕口〕を押します。

仕口形状登録におけるファンクションキー等の内容を、下記に示します。

ROLL UP 前または次の画面に移る

ROLL DOWN 前または次の画面に移る

矢印キー 矢印方向にカーソルを移動する。

f・3〔複 写〕 前のテーブルのデータを複写する。

f・5〔印 刷〕 仕口データをプリンタへ出力します。

f・6〔中 止〕 入力したデータを登録しないで、終了する

f・10〔終 了〕 入力したデータを登録し、終了する

剛仕口(1~50)

項 目	説 明	単 位
1 t	カバープレート厚さ	mm
2 b	カバープレート幅	mm
3 l	カバープレート長さ	mm
4 F	カバープレートとフランジとのすみ肉溶接サイズ	mm
5 W	ウェブと柱とのすみ肉溶接サイズ	mm
6 S	スカラップサイズ	mm

(1) 1項の入力値が「0」の場合は、フランジ幅-10mmとします。

(2) 3項の入力値が「0」の場合は、内部で求めた長さとなります。

(3) 5項の入力値が「1」以下の場合は、ウェブ板厚に対する割合とします。

ピン仕口 ( 101~150 )

項 目		説 明	単 位
1	t	ガセットプレート厚さ	mm
2	ボ ル ト	径	mm
3		本数	
4		p	mm
5		e1	mm
6		e2	mm

- (1) 2項で指定できるボルト径は、表 3.2に示す値とします。
- (2) 3項が「0」の場合は、計算値となります。
- (3) 4～6項が「0」の場合は、表 3.2に示す値とします。

入力値	ボルト径	穴径	ピッチ	端空き
16	M 16	17.0	60	30
0, 20	M 20	21.5	60	35
22	M 22	23.5	70	40
24	M 24	25.5	80	45

(単位：mm)

表 3.2 ボルト

4. f・4〔積載〕 積載荷重登録

説明	「BST-GF」で使用する積載荷重を登録します。 f・4〔積載〕を押します。
備考	積載荷重登録におけるファンクションキー等の内容を、下記に示します。
機能	<u>ROLL UP</u> 前または次の画面に移る
機能	<u>ROLL DOWN</u> 前または次の画面に移る
機能	矢印キー 矢印方向にカーソルを移動する。
機能	f・5〔印刷〕 積載荷重をプリンタへ出力します。
機能	f・6〔中止〕 入力したデータを登録しないで、終了する

f・7〔コピー〕 マスターファイルより、ユーザーファイルに積載データをコピーします。この操作を実行した場合は、任意に登録している積載データが消去されます。

f・10〔終了〕 入力したデータを登録し、終了する

項目	説明	単位
1 スラブ用	スラブ用積載荷重	kg/m <sup>2</sup>
2 小ばり用	小ばり用積載荷重	kg/m <sup>2</sup>
3 ラーメン用	ラーメン用積載荷重	kg/m <sup>2</sup>
4 地震用	地震用積載荷重	kg/m <sup>2</sup>

### 3. 5 実行終了

「BST-GF」の実行を終了します。  
f・10〔終了〕を押します。  
メッセージが表示されますので、それに従って操作を行います。  
STOPキーを押し、ディスクを抜いてから、電源を切ってください。

## 4. メインJOB

初期JOBで実行を選択し、使用領域を指定すると、メインJOBになります。  
以下に、各項目の使用方法を示します。

### 4. 1 データ入力

データの入力を行う場合は、f・1〔入力〕を押します。  
入力JOBに移ります。

### 4. 2 本体計算実行

入力データを基に、本体の計算実行を行う場合は、f・2〔M計算〕を押します。  
本体計算JOBに移ります。

### 4. 3 計算結果表示印刷

計算結果をディスプレイに表示または、プリンタに印刷を行う場合は、f・3〔表示〕を押します。  
表示JOBに移ります。

### 4. 4 二次部材計算実行

入力データおよび準備計算結果を基に、二次部材の計算実行を行う場合は、f・4〔S計算〕を押します。  
二次部材計算JOBに移ります。

### 4. 5 補助機能

入力データの印刷、チェック、フレーム図および計算結果の表示等の場合は、f・5〔補助〕を押します。  
補助機能に移ります。

### 4. 6 入力データクリア

新規計算を行う場合に、入力データをクリアする場合は、f・6〔新規〕を押します。  
画面に確認が表示されますので、クリアする場合は、「Y」キーを押します。中止する場合は、「N」キーを押します。

### 4. 7 メインJOB終了

メインJOBを終了する場合は、f・10〔終了〕を押します。  
初期JOBに戻ります。



## 5. 入力JOB

データの入力を行うJOBです。

### 5. 1 準備計算用データ入力

準備計算用データの入力を行う場合は、f・1〔P〕を押します。

準備計算用データの項目選択になります。入力する項目番号を指定します。

f・1〔△▽〕を押すと、表示項目が入れ代わります。

f・5〔印刷〕を押すと、プリンタへの項目毎の印刷ができます。印刷する項目番号を指定します。f・10を押すと、入力項目選択に戻ります。

f・10〔終了〕を押すと、準備計算用データ入力を終了し、入力JOBに戻ります。

### 5. 2 剛性計算用データ入力

剛性計算用データの入力を行う場合は、f・2〔K〕を押します。

剛性計算用データの項目選択になります。入力する項目番号を指定します。

f・5〔印刷〕を押すと、プリンタへの項目毎の印刷ができます。印刷する項目番号を指定します。f・10を押すと、入力項目選択に戻ります。

f・10〔終了〕を押すと、剛性計算用データ入力を終了し、入力JOBに戻ります。

### 5. 3 応力計算用データ入力

応力計算用データの入力を行う場合は、f・3〔S〕を押します。

応力計算用データの項目選択になります。入力する項目番号を指定します。

f・5〔印刷〕を押すと、プリンタへの項目毎の印刷ができます。印刷する項目番号を指定します。f・10を押すと、入力項目選択に戻ります。

f・10〔終了〕を押すと、応力計算用データ入力を終了し、入力JOBに戻ります。

### 5. 4 断面計算用データ入力

断面計算用データの入力を行う場合は、f・4〔M〕を押します。

断面計算用データの項目選択になります。入力する項目番号を指定します。

f・1〔△▽〕を押すと、表示項目が入れ代わります。

f・5〔印刷〕を押すと、プリンタへの項目毎の印刷ができます。印刷する項目番号を指定します。f・10を押すと、入力項目選択に戻ります。

f・10〔終了〕を押すと、断面計算用データ入力を終了し、入力JOBに戻ります。

### 5. 5 入力JOB終了

入力JOBを終了する場合は、f・10〔終了〕を押します。

初期JOBに戻ります。



## 6. 本体計算JOB

本体の計算実行を行うJOBです。

- 準備計算 (P) 準備計算用データを基に、建物の形状、はりのC, Mo, Q等、重量を計算する部分です。
- 剛性計算 (K) 剛性計算用データおよび準備計算結果を基に、D値の計算および偏心率、剛性率等ルート判別を計算する部分です。
- 応力計算 (S) 応力計算用データおよび準備計算、剛性計算結果を基に、応力計算をする部分です。
- 断面計算 (M) 断面計算用データおよび準備計算、剛性計算、応力計算結果を基に、部材の断面計算をする部分です。

ファンクションキーにより、計算種類を指定します。

- f・1〔△▽〕を押すと、表示項目が入れ代わります。  
f・10〔終了〕を押すと、本体計算JOBをを終了し、初期JOBに戻ります。

	キー表示	内容
f・2	P	準備計算
f・3	PK	準備計算+剛性計算
f・4	PKS	準備計算+剛性計算+応力計算
f・5	PKSM	準備計算+剛性計算+応力計算+断面計算
f・2	K	剛性計算
f・3	KS	剛性計算+応力計算
f・4	KSM	剛性計算+応力計算+断面計算
f・2	S	応力計算
f・3	SM	応力計算+断面計算
f・2	M	断面計算
f・2	O	評定一貫計算

計算種類を選択すると、画面にメッセージが表示されます。

各計算が終了した時点で、計算結果をプリンタに印刷する場合は、f・10〔実行2〕を押します。

各計算が終了した時点で、計算結果をプリンタに印刷しない場合は、f・9〔実行1〕を押します。

f・6〔再設定〕を押すと、計算種類選択に戻ります。

## 7. 表示 J O B

計算結果をプリンタに印刷または画面に表示します。

### 7. 1 プリンタへ印刷

計算結果をプリンタに印刷する場合は、 $f \cdot 1$  [プリント1] または  $f \cdot 2$  [プリント2] を選択します。

上の空き行数の入力となります。上の空き行数を入力します。

左のページの印刷開始桁の入力となります。左のページの印刷開始桁位置を入力します。

右のページの印刷開始桁の入力となります。右のページの印刷開始桁位置を入力します。ただし、 $f \cdot 1$  [プリント1] を指定している場合は、無視されます。

印刷位置の入力が終了すると、印刷種類の選択となります。  
ファンクションキーにより、印刷種類を指定します。

$f \cdot 1$  [△▽] を押すと、表示項目が入れ代わります。

$f \cdot 10$  [終了] を押すと、プリンタへの印刷を終了し、表示種類に戻ります。

キー表示	内容
$f \cdot 2$ P	準備計算
$f \cdot 3$ PK	準備計算 + 剛性計算
$f \cdot 4$ PK S	準備計算 + 剛性計算 + 応力計算
$f \cdot 5$ PK S M	準備計算 + 剛性計算 + 応力計算 + 断面計算
$f \cdot 2$ K	剛性計算
$f \cdot 3$ K S	剛性計算 + 応力計算
$f \cdot 4$ K S M	剛性計算 + 応力計算 + 断面計算
$f \cdot 2$ S	応力計算
$f \cdot 3$ S M	応力計算 + 断面計算
$f \cdot 2$ M	断面計算
$f \cdot 2$ O	評定一貫計算

印刷種類を選択すると、印刷部数の入力となります。必要部数を入力します。

印刷部数の入力が終了すると、確認が表示されますので、プリンタの印刷する場合は、 $f \cdot 10$  [実行] をおします。中止する場合は  $f \cdot 6$  [中止] を押します。

\*注意 計算実行がされていない、結果の印刷はできません。

$f \cdot 2$  [プリント2] は印刷幅が B5 の場合のみとします。また、プリンタの機種により、右ページが次のページに印刷される場合があります。この場合は、 $f \cdot 1$  [プリント1] を指定してください。

## 7. 2 ディスプレイに表示

計算結果をディスプレイに表示する場合は、f・3〔画面〕を選択します。

ファンクションキーにより、表示種類を指定します。

f・1〔C〕 データチェックの結果が表示されます。この項目は、評定一貫計算を実行したのみ、指定できます。

f・2〔P〕 準備計算の結果が表示されます。

f・3〔K〕 剛性計算の結果が表示されます。

f・4〔S〕 応力計算の結果が表示されます。

f・5〔M〕 断面計算の結果が表示されます。

f・10〔終了〕を押すと、画面への表示を終了し、表示種類の選択に戻ります。

ディスプレイへの表示で使用される、ファンクションキー等の内容を下記に示します。

矢印キー 表示している頁を上下左右に動かす。

f・1〔次 頁〕 次のページの表示に移る。

f・2〔前 頁〕 前のページの表示に移る。

f・3〔頁指定〕 表示したい頁の指定をする。

f・5〔頁印刷〕 表示している頁をプリンタに印刷する。

f・10〔終 了〕 表示種類の選択に戻る。

\*注意 計算実行がされていない、結果の表示はできません。

## 8. 二次部材計算JOB

準備計算用データで入力している、小はりおよび片持ちばりの断面計算を行うJOBです。

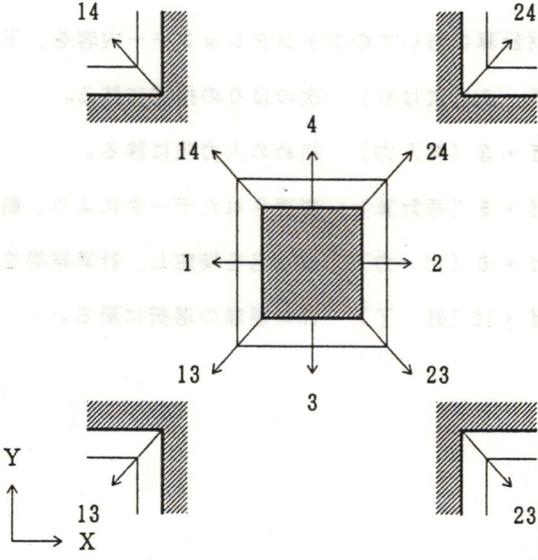
断面計算を行う部材種類を選択します。  
準備計算が終了している場合に指定できます。

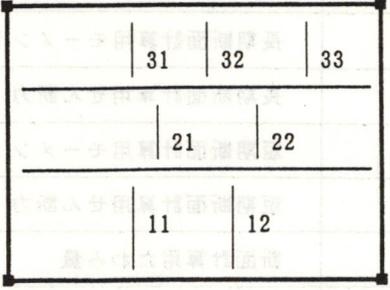
- f・1 [ SB ] S 造小ばりの断面計算
- f・2 [ RCB ] RC 造小ばりの断面計算
- f・3 [ SGC ] S 造片持ちばりの断面計算
- f・4 [ RCGC ] RC 造片持ちばりの断面計算
- f・5 [ SRCGC ] SRC 造片持ちばりの断面計算
- f・10 [ 終了 ] 二次部材計算JOBを終了し、メインJOBに戻る。

二次部材計算におけるファンクションキー内容を、下記に示します。

- f・1 [ 次はり ] 次のはりの指定に移る。
- f・3 [ 再入力 ] 初めの入力項に移る。
- f・5 [ 再計算 ] 変更されたデータにより、断面計算を行う。
- f・6 [ 出力 ] はり名を指定し、計算結果をプリンタに印刷する。
- f・10 [ 終了 ] 部材種類の選択に戻る。

8.1 S造小ばりの断面計算

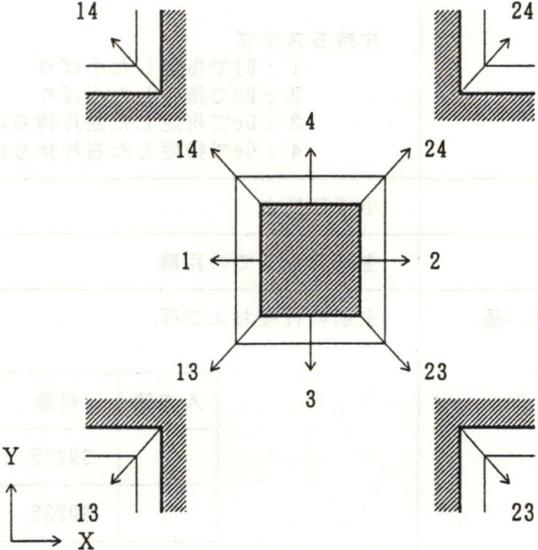
項目	説明	単位						
1 種類	小ばり種類 <table border="1" data-bbox="545 301 1045 465" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スラブ内小ばりの断面計算</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>片持ちスラブ内小ばりの断面計算</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内容	1	スラブ内小ばりの断面計算	2	片持ちスラブ内小ばりの断面計算	
入力値	内容							
1	スラブ内小ばりの断面計算							
2	片持ちスラブ内小ばりの断面計算							
2 層	断面計算をするスラブの層位置							
3 方向	断面計算をする片持ちスラブの方向 (種類が「2」の場合のみ有効)  							
4 フレーム	断面計算をするスラブのフレーム位置							
5 軸	断面計算をするスラブの軸位置							

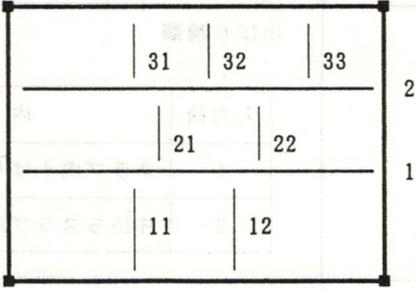
6	BNO	<p>小ばり番号</p> <p>スラブ形状番号 101~299</p>  <p>スラブ形状番号 301~399</p> <p>1 : 一次小ばり 2 : 二次小ばり 3 : 三次小ばり</p> <p>片持ちスラブ</p> <p>1 : B1で指定した小ばり 2 : B2で指定した小ばり 3 : Gcで指定した左片持ちばり 4 : Gcで指定した右片持ちばり</p>									
7	長さ	小ばり長さ (変更可)	cm								
8	材種	<p>小ばり鋼材材種</p> <table border="1" data-bbox="642 962 943 1182"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>フランジ ウェブ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SS400-SS400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SM490-SS400</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SM490-SM490</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	フランジ ウェブ	1	SS400-SS400	2	SM490-SS400	3	SM490-SM490	
入力値	フランジ ウェブ										
1	SS400-SS400										
2	SM490-SS400										
3	SM490-SM490										
9	lb	小ばり圧縮フランジ支点間距離	cm								
10	テーブルNO.	鋼材テーブル番号 (変更可)									
11	Z	断面係数 (変更可)	cm <sup>3</sup>								
12	Aw	せん断用断面積 (変更可)	cm <sup>2</sup>								
13	fb	許容曲げ応力度 (変更可)	t/cm <sup>2</sup>								
14	fs	許容せん断応力度 (変更可)	t/cm <sup>2</sup>								
15	L C, Mo	長期C, Mo (準備計算結果)	tm								
16	Qo	長期 Qo (準備計算結果)	t								
17	S C, Mo	積雪C, Mo (準備計算結果)	tm								

18	Q <sub>0</sub>	積雪 Q <sub>0</sub> (準備計算結果)	t
19	L δ	長期たわみ量	cm
20	ML	長期断面計算用モーメント (変更可)	tm
21	QL	長期断面計算用せん断力 (変更可)	t
22	MS	短期断面計算用モーメント (変更可)	tm
23	QS	短期断面計算用せん断力 (変更可)	t
24	δ	断面計算用たわみ量 (変更可)	cm
25	L. B	長期曲げ検定値	
26	S. B	短期曲げ検定値	
27	L. S	長期せん断検定値	
28	S. S	短期せん断検定値	
29	L. T	長期組合せ検定値	
30	S. T	短期組合せ検定値	
31	δ / l	たわみ角	

- (1) 1～9項まで、入力を行うと準備計算で指定されている鋼材での計算結果が、表示されます。
- (2) 鋼材テーブルおよび応力を変更した場合は、必ず再計算を指定した後に、出力してください。再計算を指定しない場合は、元のままの結果が出力されます。
- (3) 断面計算で入力している鋼材テーブルは、使用できません。

8. 2 RC造小ばりの断面計算

項目	説明	単位						
1 種類	小ばり種類 <table border="1" data-bbox="467 297 969 465"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スラブ内小ばりの断面計算</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>片持ちスラブ内小ばりの断面計算</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内容	1	スラブ内小ばりの断面計算	2	片持ちスラブ内小ばりの断面計算	
入力値	内容							
1	スラブ内小ばりの断面計算							
2	片持ちスラブ内小ばりの断面計算							
2 層	断面計算をするスラブの層位置							
3 方向	断面計算をする片持ちスラブの方向 (種類が「2」の場合のみ有効) 							
4 フレーム	断面計算をするスラブのフレーム位置							
5 軸	断面計算をするスラブの軸位置							

6	BNO	<p>小ばり番号</p> <p>スラブ形状番号 101~299</p>  <p>スラブ形状番号 301~399</p> <p>1 : 一次小ばり 2 : 二次小ばり 3 : 三次小ばり</p> <p>片持ちスラブ</p> <p>1 : B1で指定した小ばり 2 : B2で指定した小ばり 3 : Gcで指定した左片持ちばり 4 : Gcで指定した右片持ちばり</p>																					
7	長さ	小ばり長さ (変更可)	cm																				
8	dt	主筋重心までの距離	cm																				
9	主筋, 径	<p>主筋の材種および径</p> <table border="1" data-bbox="682 1020 911 1358"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SR235</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SD235</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SD295</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>SD345</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SD390</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	SR235	2	SD235	3	SD295	4	SD345	5	SD390	mm								
入力値	材種																						
1	SR235																						
2	SD235																						
3	SD295																						
4	SD345																						
5	SD390																						
10	あばら筋, 径 本数	あばら筋材種, 径および本数 (9項に同じ)	mm																				
11	タイプ	<p>モーメントタイプ</p> <table data-bbox="548 1541 991 1676"> <thead> <tr> <th></th> <th>左端</th> <th>中央</th> <th>右端</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 :</td> <td>0.6*C</td> <td>Mo-0.35*C</td> <td>0.6*C</td> </tr> <tr> <td>2 :</td> <td>0.6*C</td> <td>Mo-0.65*C</td> <td>1.2*C</td> </tr> <tr> <td>3 :</td> <td>1.2*C</td> <td>Mo-0.65*C</td> <td>0.6*C</td> </tr> <tr> <td>4 :</td> <td>1.0*C</td> <td>Mo-0.75*C</td> <td>1.0*C</td> </tr> </tbody> </table>		左端	中央	右端	1 :	0.6*C	Mo-0.35*C	0.6*C	2 :	0.6*C	Mo-0.65*C	1.2*C	3 :	1.2*C	Mo-0.65*C	0.6*C	4 :	1.0*C	Mo-0.75*C	1.0*C	
	左端	中央	右端																				
1 :	0.6*C	Mo-0.35*C	0.6*C																				
2 :	0.6*C	Mo-0.65*C	1.2*C																				
3 :	1.2*C	Mo-0.65*C	0.6*C																				
4 :	1.0*C	Mo-0.75*C	1.0*C																				

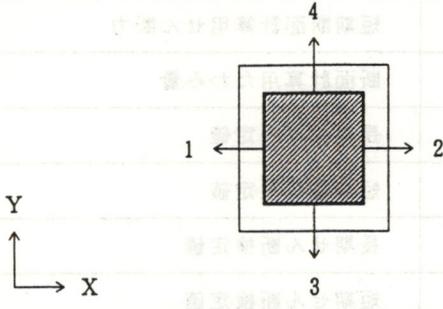
12	B	小ばり幅 (変更可)	cm												
13	D	小ばりせい (変更可)	cm												
14	d	$d=D-dt$	cm												
15	j	$j=0.875+d$	cm												
16	コンクリート Fc	コンクリート材種および設計規準強度 (変更可)	kg/cm <sup>2</sup>												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4種軽量コンクリート</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	普通コンクリート	2	1種軽量コンクリート	3	2種軽量コンクリート	4	3種軽量コンクリート	5	4種軽量コンクリート	
入力値	材種														
1	普通コンクリート														
2	1種軽量コンクリート														
3	2種軽量コンクリート														
4	3種軽量コンクリート														
5	4種軽量コンクリート														
17	fc, fs	コンクリートの許容応力度 fc: 許容圧縮応力度 fs: 許容せん断応力度	kg/cm <sup>2</sup>												
18	L C, Mo	長期C, Mo (準備計算結果)	tm												
19	Qo	長期 Qo (準備計算結果)	t												
20	S C, Mo	積雪C, Mo (準備計算結果)	tm												
21	Qo	積雪 Qo (準備計算結果)	t												
22	ML	長期断面計算用モーメント (変更可)	tm												
23	QL	長期断面計算用せん断力 (変更可)	t												
24	MS	短期断面計算用モーメント (変更可)	tm												
25	QS	短期断面計算用せん断力 (変更可)	t												
26	QA, L, QA, S	$\alpha fs B j$ (L:長期 S:短期)	t												
27	ptL, ptS	引張鉄筋比 (L:長期 S:短期)	%												
28	$\gamma L, \gamma S$	複筋比 (L:長期 S:短期)													
29	atU, atD	主筋必要断面積 (U:上端 D:下端)	cm <sup>2</sup>												
30	N	主筋本数 (上端/下端) (変更可)													
31	pw	あばら筋比	%												
32	ピッチ	あばら筋間隔 (変更可)	mm												

- (1) 1～11項まで、入力を行うと準備計算で指定されている断面での計算結果が、表示されます。
- (2) 断面サイズおよび応力を変更した場合は、必ず再計算を指定した後に、出力してください。再計算を指定しない場合は、元のままの結果が出力されます。
- (3) 主筋本数およびあばら筋間隔は、計算した後に変更します。再計算を実行すると、計算結果となります。

断面	設計者
1-1	1
1-2	2
1-3	3
1-4	4
1-5	5

項目	内容	値	単位
100101	設計者指定の1-1断面に 設計断面内容: 設計筋部入寸内容: 1	21.21	mm
101	(変更) (設計者指定) 1-1断面	21.21	mm
102	(変更) (設計者指定) 1-2断面	20.00	mm
103	(変更) (設計者指定) 1-3断面	20.00	mm
104	(変更) (設計者指定) 1-4断面	20.00	mm
105	(変更) (設計者指定) 1-5断面	20.00	mm
106	(変更) (設計者指定) 1-1断面	20.00	mm
107	(変更) (設計者指定) 1-2断面	20.00	mm
108	(変更) (設計者指定) 1-3断面	20.00	mm
109	(変更) (設計者指定) 1-4断面	20.00	mm
110	(変更) (設計者指定) 1-5断面	20.00	mm
111	(変更) (設計者指定) 1-1断面	20.00	mm
112	(変更) (設計者指定) 1-2断面	20.00	mm
113	(変更) (設計者指定) 1-3断面	20.00	mm
114	(変更) (設計者指定) 1-4断面	20.00	mm
115	(変更) (設計者指定) 1-5断面	20.00	mm
116	(変更) (設計者指定) 1-1断面	20.00	mm
117	(変更) (設計者指定) 1-2断面	20.00	mm
118	(変更) (設計者指定) 1-3断面	20.00	mm
119	(変更) (設計者指定) 1-4断面	20.00	mm
120	(変更) (設計者指定) 1-5断面	20.00	mm

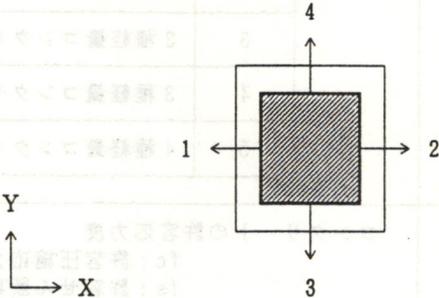
8. 3 S 造片持ちばりの断面計算

項目	説明	単位								
1 層	断面計算をする片持ちばりの層位置									
2 方向	断面計算をする片持ちばりの方向 									
3 フレーム	断面計算をする片持ちばりのフレーム位置									
4 軸	断面計算をする片持ちばりの軸位置									
5 長さ	片持ちばり長さ (変更可)	cm								
6 材種	片持ちばり鋼材材種 <table border="1" data-bbox="591 888 893 1110"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>フランジ ヲェブ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SS400-SS400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SM490-SS400</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SM490-SM490</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	フランジ ヲェブ	1	SS400-SS400	2	SM490-SS400	3	SM490-SM490	
入力値	フランジ ヲェブ									
1	SS400-SS400									
2	SM490-SS400									
3	SM490-SM490									
7 lb	片持ちばり圧縮フランジ支点間距離	cm								
8 テーブルNO.	鋼材テーブル番号 (変更可)									
9 Z	断面係数 (変更可)	cm <sup>3</sup>								
10 Aw	せん断用断面積 (変更可)	cm <sup>2</sup>								
11 fb	許容曲げ応力度 (変更可)	t/cm <sup>2</sup>								
12 fs	許容せん断応力度 (変更可)	t/cm <sup>2</sup>								
13 LM	長期 M (準備計算結果)	tm								
14 LQ	長期 Q (準備計算結果)	t								
15 SM	積雪 M (準備計算結果)	tm								
16 SQ	積雪 Q (準備計算結果)	t								

17	L δ	長期たわみ量	cm
18	ML	長期断面計算用モーメント (変更可)	tm
19	QL	長期断面計算用せん断力 (変更可)	t
20	MS	短期断面計算用モーメント (変更可)	tm
21	QS	短期断面計算用せん断力 (変更可)	t
22	δ	断面計算用たわみ量 (変更可)	cm
23	L. B	長期曲げ検定値	
24	S. B	短期曲げ検定値	
25	L. S	長期せん断検定値	
26	S. S	短期せん断検定値	
27	L. T	長期組合せ検定値	
28	S. T	短期組合せ検定値	
29	δ / l	たわみ角	

- (1) 1～7項まで、入力を行うと準備計算で指定されている鋼材での計算結果が表示されます。
- (2) 鋼材テーブルおよび応力を変更した場合は、必ず再計算を指定した後に、出力してください。再計算を指定しない場合は、元のままの結果が出力されます。
- (3) 断面計算で入力している鋼材テーブルは、使用できません。

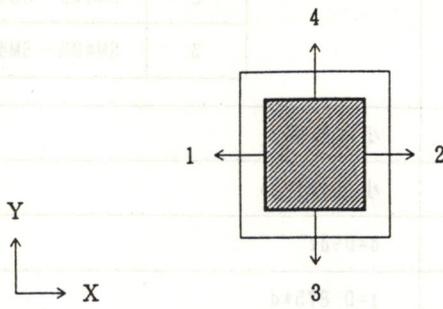
8.4 RC造片持ちばりの断面計算

項目	説明	単位												
1 層	断面計算をする片持ちばりの層位置													
2 方向	断面計算をする片持ちばりの方向 													
3 フレーム	断面計算をする片持ちばりのフレーム位置													
4 軸	断面計算をする片持ちばりの軸位置													
5 長さ	片持ちばり長さ (変更可)	cm												
6 dt	主筋重心までの距離	cm												
7 主筋, 径	主筋の材種および径 <table border="1" data-bbox="665 967 889 1306"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SR235</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SD235</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SD295</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>SD345</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SD390</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	SR235	2	SD235	3	SD295	4	SD345	5	SD390	mm
入力値	材種													
1	SR235													
2	SD235													
3	SD295													
4	SD345													
5	SD390													
8 あばら筋, 径 本数	あばら筋材種, 径および本数 (7項に同じ)	mm												
9 B	小ばり幅 (変更可)	cm												
10 D	小ばりせい (変更可)	cm												
11 d	$d=D-dt$	cm												
12 j	$j=0.875*d$	cm												

13	コンクリート Fc	コンクリート材種および設計規準強度 (変更可)	kg/cm <sup>2</sup>												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4種軽量コンクリート</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	普通コンクリート	2	1種軽量コンクリート	3	2種軽量コンクリート	4	3種軽量コンクリート	5	4種軽量コンクリート	
入力値	材種														
1	普通コンクリート														
2	1種軽量コンクリート														
3	2種軽量コンクリート														
4	3種軽量コンクリート														
5	4種軽量コンクリート														
14	fc, fs	コンクリートの許容応力度 fc: 許容圧縮応力度 fs: 許容せん断応力度	kg/cm <sup>2</sup>												
15	LM	長期 M (準備計算結果)	tm												
16	LQ	長期 Q (準備計算結果)	t												
17	SM	積雪 M (準備計算結果)	tm												
18	SQ	積雪 Q (準備計算結果)	t												
19	ML	長期断面計算用モーメント (変更可)	tm												
20	QL	長期断面計算用せん断力 (変更可)	t												
21	MS	短期断面計算用モーメント (変更可)	tm												
22	QS	短期断面計算用せん断力 (変更可)	t												
23	QA, L, QA, S	$\alpha fs B j$ (L:長期 S:短期)	t												
24	ptL, ptS	引張鉄筋比 (L:長期 S:短期)	%												
25	$\gamma L, \gamma S$	複筋比 (L:長期 S:短期)													
26	atU, atD	主筋必要断面積 (U:上端 D:下端)	cm <sup>2</sup>												
27	N	主筋本数 (上端/下端) (変更可)													
28	pw	あばら筋比	%												
29	ピッチ	あばら筋間隔 (変更可)	mm												

- (1) 1～8項まで、入力を行うと準備計算で指定されている断面での計算結果が、表示されます。
- (2) 断面サイズおよび応力を変更した場合は、必ず再計算を指定した後に、出力してください。再計算を指定しない場合は、元のままの結果が出力されます。
- (3) 主筋本数およびあばら筋間隔は、計算した後に変更します。再計算を実行すると、計算結果となります。

8. 5 SRC 造片持ちばりの断面計算

項目	説明	単位												
1 層	断面計算をする片持ちばりの層位置													
2 方向	断面計算をする片持ちばりの方向 													
3 フレーム	断面計算をする片持ちばりのフレーム位置													
4 軸	断面計算をする片持ちばりの軸位置													
5 長さ	片持ちばり長さ (変更可)	cm												
6 dt	主筋重心までの距離	cm												
7 主筋, 径	主筋の材種および径 <table border="1" data-bbox="618 956 846 1304"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SR235</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SD235</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SD295</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>SD345</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SD390</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	SR235	2	SD235	3	SD295	4	SD345	5	SD390	mm
入力値	材種													
1	SR235													
2	SD235													
3	SD295													
4	SD345													
5	SD390													
8 あばら筋, 径 本数	あばら筋材種, 径および本数 (7項に同じ)	mm												
9 テーブルNO.	鋼材テーブル番号 (変更可)													

10	材種	鋼材材種													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>フランジ ケーブ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SS400-SS400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SM490-SS400</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SM490-SM490</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	フランジ ケーブ	1	SS400-SS400	2	SM490-SS400	3	SM490-SM490					
入力値	フランジ ケーブ														
1	SS400-SS400														
2	SM490-SS400														
3	SM490-SM490														
11	B	小ぶり幅 (変更可)	cm												
12	D	小ぶりせい (変更可)	cm												
13	d	$d=D-dt$	cm												
14	j	$j=0.875*d$	cm												
15	コンクリート Fc	コンクリート材種および設計規準強度 (変更可)	kg/cm <sup>2</sup>												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4種軽量コンクリート</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	普通コンクリート	2	1種軽量コンクリート	3	2種軽量コンクリート	4	3種軽量コンクリート	5	4種軽量コンクリート	
入力値	材種														
1	普通コンクリート														
2	1種軽量コンクリート														
3	2種軽量コンクリート														
4	3種軽量コンクリート														
5	4種軽量コンクリート														
16	fc, fs	コンクリートの許容応力度 fc: 許容圧縮応力度 fs: 許容せん断応力度	kg/cm <sup>2</sup>												
17	Z	断面係数 (変更可)	cm <sup>3</sup>												
18	Aw	せん断用断面積 (変更可)	cm <sup>2</sup>												
19	fb	許容曲げ応力度 (変更可)	t/cm <sup>2</sup>												
20	fs	許容せん断応力度 (変更可)	t/cm <sup>2</sup>												
21	LM	長期 M (準備計算結果)	tm												
22	LQ	長期 Q (準備計算結果)	t												
23	SM	積雪 M (準備計算結果)	tm												
24	SQ	積雪 Q (準備計算結果)	t												
25	ML	長期断面計算用モーメント (変更可)	tm												

26	QL	長期断面計算用せん断力 (変更可)	t
27	MS	短期断面計算用モーメント (変更可)	tm
28	QS	短期断面計算用せん断力 (変更可)	t
29	sMAL, sMAS	S部分許容モーメント (sMAL:長期 sMAS:短期)	tm
30	rML, rMS	RC部分設計モーメント (rML:長期 rMS:短期)	tm
31	sQL, sQS	S部分設計せん断力 (sQL:長期 sQS:短期)	t
32	rQL, rQS	RC部分設計せん断力 (rQL:長期 rQS:短期)	t
33	sQAL, sQAS	S部分許容せん断力 (sQAL:長期 sQAS:短期)	t
34	ptL, ptS	引張鉄筋比 (L:長期 S:短期)	%
35	$\gamma$ L, $\gamma$ S	複筋比 (L:長期 S:短期)	
36	atU, atD	主筋必要断面積 (U:上端 D:下端)	cm <sup>2</sup>
37	N	主筋本数 (上端/下端) (変更可)	
38	pw	あばら筋比	%
39	ピッチ	あばら筋間隔 (変更可)	mm

- (1) 1～10項まで、入力を行うと準備計算で指定されている断面での計算結果が、表示されます。
- (2) 断面サイズおよび応力等を変更した場合は、必ず再計算を指定した後に、出力してください。再計算を指定しない場合は、元のままの結果が出力されます。
- (3) 主筋本数およびあばら筋間隔は、計算した後に変更します。再計算を実行すると、計算結果となります。

## 9. 補助機能

「BST-GF」を運用するための、補助作業を行うJOBです。  
 補助機能は、下記に示す項目があります。処理する項目を選択します。  
 f・10〔終了〕を押すと、メインJOBに戻ります。

1. データライン数の変更
2. エコープリント
3. 入力データチェック
4. フレーム図, 伏図表示
5. 応力図
6. 変位図
7. 断面計算結果図

以下、の各項目の使用方を示します。

01	10-9	02	11-9	03	12-9	04	13-9
05	14-9	06	15-9	07	16-9	08	17-9
09	18-9	10	19-9	11	20-9	12	21-9
13	22-9	14	23-9	15	24-9	16	25-9
17	26-9	18	27-9	19	28-9	20	29-9
21	30-9	22	31-9	23	32-9	24	33-9
25	34-9	26	35-9	27	36-9	28	37-9
29	38-9	30	39-9	31	40-9	32	41-9
33	42-9	34	43-9	35	44-9	36	45-9
37	46-9	38	47-9	39	48-9	40	49-9
41	50-9	42	51-9	43	52-9	44	53-9
45	54-9	46	55-9	47	56-9	48	57-9
49	58-9	50	59-9	51	60-9	52	61-9
53	62-9	54	63-9	55	64-9	56	65-9
57	66-9	58	67-9	59	68-9	60	69-9
61	70-9	62	71-9	63	72-9	64	73-9
65	74-9	66	75-9	67	76-9	68	77-9
69	78-9	70	79-9	71	80-9	72	81-9
73	82-9	74	83-9	75	84-9	76	85-9
77	86-9	78	87-9	79	88-9	80	89-9
81	90-9	82	91-9	83	92-9	84	93-9
85	94-9	86	95-9	87	96-9	88	97-9
89	98-9	90	99-9	91	00-9	92	01-9
93	02-9	94	03-9	95	04-9	96	05-9
97	06-9	98	07-9	99	08-9	00	09-9

01	10-X	02	11-X	03	12-X	04	13-X
05	14-X	06	15-X	07	16-X	08	17-X
09	18-X	10	19-X	11	20-X	12	21-X
13	22-X	14	23-X	15	24-X	16	25-X
17	26-X	18	27-X	19	28-X	20	29-X
21	30-X	22	31-X	23	32-X	24	33-X
25	34-X	26	35-X	27	36-X	28	37-X
29	38-X	30	39-X	31	40-X	32	41-X
33	42-X	34	43-X	35	44-X	36	45-X
37	46-X	38	47-X	39	48-X	40	49-X
41	50-X	42	51-X	43	52-X	44	53-X
45	54-X	46	55-X	47	56-X	48	57-X
49	58-X	50	59-X	51	60-X	52	61-X
53	62-X	54	63-X	55	64-X	56	65-X
57	66-X	58	67-X	59	68-X	60	69-X
61	70-X	62	71-X	63	72-X	64	73-X
65	74-X	66	75-X	67	76-X	68	77-X
69	78-X	70	79-X	71	80-X	72	81-X
73	82-X	74	83-X	75	84-X	76	85-X
77	86-X	78	87-X	79	88-X	80	89-X
81	90-X	82	91-X	83	92-X	84	93-X
85	94-X	86	95-X	87	96-X	88	97-X
89	98-X	90	99-X	91	00-X	92	01-X
93	02-X	94	03-X	95	04-X	96	05-X
97	06-X	98	07-X	99	08-X	00	09-X

## 9. 1 データライン数の変更

入力データライン数の変更を行う場合に、指定します。  
初期の段階でのライン数を変更することが、可能です。  
データライン数を変更しても入力データはクリアされません。ただし、データライン数を少なくした場合は、新たに設定したライン数までのデータのみ有効となります。  
本項でのファンクションキー内容を、下記に示します。

- f・1〔前画面〕 前の表示画面に移る。
- f・2〔次画面〕 次の表示画面に移る。
- f・6〔中止〕 データライン数を変更しないで、補助機能の項目選択に戻る。
- f・10〔終了〕 データライン数を変更し、補助機能の項目選択に戻る。

各項目での、データライン数を設定します。画面右上に使用容量を表示していますので、100%を超えない様に設定してください。

下記に初期設定ライン数を示します。（\*印は、データライン数の設定無し）

下記のまま、変更がない場合は、本項で指定する必要はありません。

### 準備計算用データ

P- 1: *	P-21: 10	P-41: 50	P-61: 50
P- 2: *	P-22: *	P-42: 50	P-62: 70
P- 3: *	P-23: 30	P-43: 50	P-63: 50
P- 4: *	P-24: 30	P-44: 50	P-64: 50
P- 5: *	P-25: 20	P-45: 50	P-65: 20
P- 6: *	P-26: 20	P-46: 30	P-66: *
P- 7: 20	P-27: 100	P-47: 100	P-67: 30
P- 8: *	P-28: 70	P-48: 100	P-68: 30
P- 9: 20	P-29: 70	P-49: 100	P-69: 30
P-10: 20	P-30: 70	P-50: 100	P-70: 30
P-11: 20	P-31: 70	P-51: 50	P-71: 30
P-12: 10	P-32: 50	P-52: 50	P-72: 30
P-13: 20	P-33: 50	P-53: 100	P-73: 30
P-14: 10	P-34: 70	P-54: 100	P-74: 30
P-15: 10	P-35: 30	P-55: 100	P-75: 30
P-16: *	P-36: 70	P-56: 50	P-76: *
P-17: *	P-37: 30	P-57: 50	
P-18: *	P-38: 30	P-58: 50	
P-19: 20	P-39: 50	P-59: 70	
P-20: *	P-40: 50	P-60: 50	

### 剛性計算用データ

K- 1: 30	K- 6: 50	K-11: 50	K-16: 50
K- 2: 50	K- 7: 50	K-12: 50	K-17: *
K- 3: 30	K- 8: 50	K-13: 20	K-18: *
K- 4: *	K- 9: 50	K-14: 20	
K- 5: 50	K-10: 50	K-15: 50	

応力計算用データ

S- 1 : \* S- 6 : \*  
S- 2 : 50  
S- 3 : 50  
S- 4 : \*  
S- 5 : 50

断面計算用データ

M- 1 : \* M-16 : 50 M-31 : 100 M-46 : 50  
M- 2 : 20 M-17 : \* M-32 : 70 M-47 : 50  
M- 3 : 100 M-18 : \* M-33 : 50 M-48 : \*  
M- 4 : 50 M-19 : \* M-34 : 50  
M- 5 : 30 M-20 : \* M-35 : 100  
M- 6 : 30 M-21 : \* M-36 : 70  
M- 7 : 30 M-22 : 20 M-37 : 50  
M- 8 : \* M-23 : 30 M-38 : 50  
M- 9 : 50 M-24 : 30 M-39 : 100  
M-10 : 50 M-25 : 50 M-40 : 30  
M-11 : 70 M-26 : 70 M-41 : 50  
M-12 : 50 M-27 : 50 M-42 : 30  
M-13 : 50 M-28 : 70 M-43 : 30  
M-14 : 70 M-29 : 30 M-44 : 30  
M-15 : 30 M-30 : 50 M-45 : 50

## 9. 2 エコープリント

入力データをプリンタに印刷する場合に、指定します。  
印刷するデータ種類をファンクションキーにより選択します。  
ファンクションキーの内容を下記に示します。

- f・1 [ P ] 準備計算用データをプリンタに印刷する。
- f・2 [ K ] 剛性計算用データをプリンタに印刷する。
- f・3 [ S ] 応力計算用データをプリンタに印刷する。
- f・4 [ M ] 断面計算用データをプリンタに印刷する。
- f・10 [ 終了 ] エコープリントを終了し、補助機能の項目選択に戻る。

### 9. 3 データチェック

入力データをチェックする場合に、指定します。  
 入力データをチェックし、入力エラーが有る場合は、プリンタにメッセージが出力されます。  
 入力エラーが無い場合は、画面にエラー無しの表示があります。  
 ファンクションキーにより、データ種類を指定します。

f・1〔△▽〕を押すと、表示項目が入れ代わります。  
 f・10〔終了〕を押すと、データチェックを終了し、補助機能の項目選択に戻ります。

キー表示	内容
f・2 P	準備計算
f・3 PK	準備計算+剛性計算
f・4 PKS	準備計算+剛性計算+応力計算
f・5 PKSM	準備計算+剛性計算+応力計算+断面計算
f・2 K	剛性計算
f・3 KS	剛性計算+応力計算
f・4 KSM	剛性計算+応力計算+断面計算
f・2 S	応力計算
f・3 SM	応力計算+断面計算
f・2 M	断面計算

データ種類を選択すると、画面にメッセージが表示されます。  
 データチェックを開始する場合は、f・10〔実行〕を押します。  
 f・6〔再設定〕を押すと、データ種類選択に戻ります。

## 9. 4 フレーム図、伏図表示

準備計算用データを基に、画面にフレーム図、伏図を表示する場合に、指定します。本項を指定すると、表示図の種類選択となります。ファンクションキーにより選択します。

f・1 [フレーム図] フレーム図表示に移る。

f・2 [伏図] 伏図表示に移る。

f・10 [終了] フレーム図、伏図表示を終了し、補助機能の項目選択に戻る。

### 1. フレーム図表示

フレーム図を選択すると、画面にフレーム図の項目が表示されます。ファンクションキーにより、選択します。

f・1 [Xフレーム] X方向フレーム図表示

f・2 [Yフレーム] Y方向フレーム図表示

X, Y 方向フレーム図の表示を行います。ファンクションキーを使用し、操作を行います。

f・1 [次軸] を押すと、次のフレームを表示します。

f・2 [指定] を押すと、表示したいフレーム番号を入力します。フレーム番号を指定すると、指定したフレーム図が表示されます。

f・3 [拡大] を押すと、拡大の範囲を設定します。拡大範囲の設定を行うと、画面に拡大されたフレーム図が表示されます。

f・4 [標準] を押すと、拡大されたフレーム図を初期の状態に戻します。

f・5 [コピー] を押すと、画面に表示されているフレーム図をプリンタにハードコピーします。

f・10 [終了] を押すと、フレーム図の項目選択に戻ります。

f・3 [設定] フレーム図表示設定

各形状番号およびスパン長さ等の、表示の有無を指定します。

「1」を指定すると、表示有りとなり、「2」を指定すると表示無しとなります。

f・10 [終了] を押すと、フレーム図の項目選択に戻ります。

f・4 [Xコピー] X方向フレーム図連続コピー

f・5 [Yコピー] Y方向フレーム図連続コピー

X, Y 方向フレーム図をプリンタに連続でハードコピーします。

## 2. 伏図表示

伏図を選択すると、画面に伏図の項目が表示されます。ファンクションキーにより、選択します。

### f・1〔伏 図〕 伏図表示

伏図の表示を行います。ファンクションキーを使用し、操作を行います。

f・1〔次層〕を押すと、次の層の伏図を表示します。

f・2〔指定〕を押すと、表示したい層番号を入力します。層番号を指定すると、指定した層の伏図が表示されます。

f・3〔拡大〕を押すと、拡大の範囲を設定します。拡大範囲の設定を行うと、画面に拡大された伏図が表示されます。

f・4〔標準〕を押すと、拡大された伏図を初期の状態に戻します。

f・5〔コピー〕を押すと、画面に表示されている伏図をプリンタにハードコピーします。

f・10〔終了〕を押すと、伏図の項目選択に戻ります。

### f・3〔設 定〕 伏図表示設定

各形状番号およびスパン長さ等の、表示の有無を指定します。

「1」を指定すると、表示有りとなり、「2」を指定すると表示無しとなります。

f・10〔終了〕を押すと、伏図の項目選択に戻ります。

### f・5〔コピー〕 伏図連続コピー

伏図をプリンタに連続でハードコピーします。

## 9. 5 応力図表示

応力計算結果を基に、画面に応力図を表示する場合に、指定します。  
本項を指定すると、応力図の項目選択となります。ファンクションキーにより選択します。

- f・1 [X Fv-M] X方向応力図表示
- f・2 [Y Fv-M] Y方向応力図表示

X, Y 方向応力図の表示を行います。ファンクションキーを使用し、操作を行います。

白色文字：モーメント 水色：せん断力 紫色：軸力

f・1 [次軸] を押すと、次のフレームの応力図を表示します。

f・2 [指定] を押すと、表示したいフレーム番号を入力します。フレーム番号を指定すると、指定したフレームの応力図が表示されます。

f・3 [拡大] を押すと、拡大の範囲を設定します。拡大範囲の設定を行うと、画面に拡大された応力図が表示されます。

f・4 [標準] を押すと、拡大された応力図を初期の状態に戻します。

f・5 [コピー] を押すと、画面に表示されている応力図をプリンタにハードコピーします。

f・6 [荷重] を押すと、表示する荷重の選択となります。荷重を選択するとその荷重の応力図が表示されます。

f・10 [終了] を押すと、変位図の項目選択に戻ります。

### f・3 [設定] 応力図表示設定

応力およびモーメントの倍率等の、表示の有無等を指定します。

「1」を指定すると、表示有りとなり、「2」を指定すると表示無しとなります。モーメントの倍率は、「1」の時は 10tm を 1m の割合で表示します。

f・10 [終了] を押すと、応力図の項目選択に戻ります。

- f・4 [Xコピー] X方向応力図連続コピー
- f・5 [Yコピー] Y方向応力図連続コピー

X, Y 方向応力図をプリンタに連続でハードコピーします。

## 9. 6 変位図表示

応力計算結果を基に、画面に変位図を表示する場合に、指定します。  
本項を指定すると、変位図の項目選択となります。ファンクションキーにより選択します。

- f・1 [X フレーム] X方向変位図表示
- f・2 [Y フレーム] Y方向変位図表示

X, Y 方向変位図の表示を行います。ファンクションキーを使用し、操作を行います。

破線：元のフレーム形状 実線：変位後のフレーム形状

f・1 [次軸] を押すと、次のフレームの変位図を表示します。

f・2 [指定] を押すと、表示したいフレーム番号を入力します。フレーム番号を指定すると、指定したフレームの変位図が表示されます。

f・3 [拡大] を押すと、拡大の範囲を設定します。拡大範囲の設定を行うと、画面に拡大された変位図が表示されます。

f・4 [標準] を押すと、拡大された変位図を初期の状態に戻します。

f・5 [コピー] を押すと、画面に表示されている変位図をプリンタにハードコピーします。

f・6 [荷重] を押すと、表示する荷重の選択となります。荷重を選択するとその荷重の変位図が表示されます。

f・10 [終了] を押すと、変位図の項目選択に戻ります。

### f・3 [設定] 変位図表示設定

変位量の表示の際の倍率を入力します。

f・10 [終了] を押すと、変位図の項目選択に戻ります。

- f・4 [Xコピー] X方向変位図連続コピー
- f・5 [Yコピー] Y方向変位図連続コピー

X, Y 方向変位図をプリンタに連続でハードコピーします。

## 9. 7 断面計算結果図

断面計算結果を、プリンタに印刷する場合に、指定します。  
 本項を指定すると、出力部材の選択となります。ファンクションキーにより選択します。

f・1〔G 鉄骨〕 はり計算結果鉄骨出力

S 造のはりまたは、SRC 造のはりのS 部分を印刷します。

印刷したいフレーム番号を指定します。

f・10〔終了〕を押すと、部材の選択に戻ります。

位置			内容	位置			内容
左端	中央	右端	テーブルNO. 左端部材寸法 中央部材寸法 右端部材寸法	左端	中央	右端	テーブルNO. 左端部材寸法 中央部材寸法 右端部材寸法
左端	中央	右端	フランジ材種	左端	中央	右端	フランジ材種
左端	中央	右端	ウェブ材種	左端	中央	右端	ウェブ材種
左端	中央	右端	曲げ検定値				
左端	中央	右端	組合せ検定値				
S 造はり				SRC 造はり S部分			

f・2〔G 鉄筋〕 はり計算結果鉄筋出力

RC造のはりまたは、SRC 造のはりのRC部分を印刷します。

印刷したいフレーム番号を指定します。

f・10〔終了〕を押すと、部材の選択に戻ります。

位置			内容
左端	中央	右端	はり幅
左端	中央	右端	はりせい
左端	中央	右端	主筋、あばら筋
左端	中央	右端	上端必要鉄筋断面積
左端	中央	右端	下端必要鉄筋断面積
左端	中央	右端	主筋本数(上端/下端)
左端	中央	右端	あばら筋比
左端	中央	右端	あばら筋本数-ピッチ

f・3〔C 鉄骨〕 柱 計算結果鉄骨出力

S 造の柱または、SRC 造柱の S 部分を印刷します。  
印刷したい階番号を指定します。  
f・10〔終了〕を押すと、部材の選択に戻ります。

位置		内容	
テーブルNO.	方向	材種	
			部材寸法
			部材寸法
X 柱頭	X 柱脚	Y 柱頭	Y 柱脚
			曲げ検定値
X 柱頭	X 柱脚	Y 柱頭	Y 柱脚
			組合せ検定値
S 造柱			

位置		内容	
X 方向	Y 方向	テーブルNO.	
			X 方向部材寸法
			Y 方向部材寸法
X 方向	Y 方向		フランジ材種
X 方向	Y 方向		ウェブ材種
SRC 造柱 S 部分			

f・4〔C 鉄筋〕 柱 計算結果鉄筋出力

RC 造の柱または、SRC 造柱の RC 部分を印刷します。  
印刷したい階番号を指定します。  
f・10〔終了〕を押すと、部材の選択に戻ります。

位置		内容	
X 方向	Y 方向		
			柱幅
			主筋, 帯筋
X 方向	Y 方向		柱頭必要鉄筋断面積
X 方向	Y 方向		柱脚必要鉄筋断面積
X 方向	Y 方向		主筋本数 (上端/下端)
X 柱頭	X 柱脚	Y 柱頭	Y 柱脚
			帯筋比
X 方向	Y 方向		柱頭帯筋本数-ピッチ
X 方向	Y 方向		柱脚帯筋本数-ピッチ

f・5〔設定〕 出力形式設定

プリンタに出力する形式を指定します。  
f・10〔終了〕を押すと、部材の選択に戻ります。

- 「1」を選択すると、出力幅 B5 で横に 3 部材出力されます。
- 「2」を選択すると、出力幅 B4 で横に 4 部材出力されます。
- 「3」を選択すると、出力幅 B4 で横に 7 部材出力されます。

## 10. その他

### 10. 1 解説書の追加申込

『BST-GF』の解説書の追加を申し込まれる場合は、下記により申し込みをお願い致します。

- (1) 申込書1をコピーし、必要事項を記入してください。
- (2) 代金または銀行振込の控えのコピーを用意してください。
- (3) (1)と(2)を当社まで、送付してください。銀行振込の場合は、FAXで送ってください。

申込書および代金が到着しだい、宅急便にて発送いたします。

### 10. 2 プログラムディスクの復旧申込

『BST-GF』のプログラムディスクが、何らかの原因で破損した場合に、下記により申し込み頂くと、新しいプログラムディスクを送付いたします。

- (1) 申込書2をコピーし、必要事項を記入してください。
- (2) 代金または銀行振込の控えのコピーを用意してください。
- (3) 破損したプログラムディスクを用意してください。
- (4) (1)~(3)を当社まで、送付してください。

申込書および代金が到着しだい、宅急便にて発送いたします。

### 10. 3 振込口座

代金を銀行振込で支払う場合は、下記口座をお願い致します。

第一勧業銀行 恵比寿支店 普通 1016544

(株)エー・エス・ディー

申込書 1

平成\_\_年\_\_月\_\_日

種類	単価	数量	金額
(1) 操作編	¥ 2,000-		¥
(2) 概要編	¥ 2,500-		¥
(3) 入力編	¥ 3,500-		¥
(4) 出力編	¥ 2,500-		¥
(5) 鋼材テーブル表	¥ 2,000-		¥
(6) データ記入シート	¥ 4,000-		¥
(7) (1)~(5) のセット	¥10,000-		¥
小 計			¥
消費税 (小計×3%)			¥
合計 (小計+消費税)			¥

株式会社 エー・エス・ディー様

上記の「BST-GF」解説書を申し込みます。

登録番号 \_\_\_\_\_

事務所名 \_\_\_\_\_ 印

担当者名 \_\_\_\_\_ 印

☎ \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

申込書 2

平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

株式会社 エー・エス・ディー様

「BST-GF」プログラムディスクの破損の為、破損ディスクを同封し、復旧を申し込みます。

復旧  
プログラムディスク \_\_\_\_ 枚 × ¥ 5,000- = ① ¥ \_\_\_\_\_

手数料 ② ¥ 10,000-

③ = ① + ② 小計 ③ ¥ \_\_\_\_\_

④ = ③ × 0.3 % 消費税 ④ ¥ \_\_\_\_\_

⑤ = ③ + ④ 合計 ⑤ ¥ \_\_\_\_\_

登録番号 \_\_\_\_\_

事務所名 \_\_\_\_\_ 印

担当者名 \_\_\_\_\_ 印

☎ \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

BST-GF 操作編

1991年 7月 第1版

版權所有 株式会社 エー・エス・ディー

〒150 東京都渋谷区恵比寿南 1-6-11  
アーバン恵比寿ビル 10階  
☎ 03(3791)0881

